

## スウェーデン留学記 平成 15 年入局 金本 真美

島田光生教授の御厚意により、2009 年 10 月から Sweden の Karolinska Institutet に留学させていただいています。こちらに来て早半年、今だにスウェーデン語は理解できませんが、日々奮闘しています。

今年のスウェーデンはヨーロッパ、アメリカと同様例年以上の寒さで、一説では 80 年ぶりの寒さとも言われました。 $-20^{\circ}\text{C}$ 以下になることも稀でなく（岩田先生には最低でも $-10^{\circ}\text{C}$ くらいと聞いていたので、だまされた感じですが）、春が待ち遠しい毎日です。おかげで、きれいな樹氷(写真下左)も見られ、近所の Haga Parken では湖が凍り、凍った湖の上にはホットドッグの屋台(写真下右：湖の上です！)も出ていました。



2 月にはラップランドへオーロラ観測に行ってきました。残念ながら天候不良で、オーロラにはお目にかかれませんでした。ICE HOTEL を見学して、スキーを楽しみ、最終日には犬ぞりも体験してきました（やはり極寒で、凍傷になりかけました）。



1 月から来たイタリア人留学生が同い年で同性ということもあり、強い影響を受けています。こちらの女医さんと一緒にランチをする機会も増えて、愚痴を言い合うこともあります。日本でもスウェーデンでもイタリアでも、程度の差はあれ『女性外科医』が持っている悩みは同じだと驚いた反面、共感しあえてうれしく思いました。



今年の4月からは北海道大学第一外科の高橋徹先生がいらして、同じ部屋に日本人が3人もいる状況になり、英語を話さなくなってしまうそうです。



臨床では今月からバックテーブルを任されるようになり（もちろん指導のもとですが）、以前より緊張感が増しました。先日、肝移植が1000例目を向かえ、この時にも参加させていただきました（写真左）。昨年の肝移植25周年から『記念日』続きです。（この1000例目の移植にはスウェーデン人スタッフがいなかったという、おまけつきですが。）

後日、肝移植1000例目のパーティーも開かれ、内科、外科、麻酔科、ナース、コーディネーターが一同に会して、盛大にお祝いしました。日本のPRのため(?)、ここぞとばかり着物で参加しましたが、ほんとどが着物を見たことがない人ばかりで大変珍しがられました。Ericzon 教授には喜んで頂いて、大満足です。



こちらに来て、毎日が新しいことの発見で、日本では経験できないような貴重なことを体験させていただいています。このような素晴らしい機会を与えて下さった島田教授、ならびに医局の皆様に心から感謝いたします。